



会報 Verda200 記念号によせて 和光市長のごあいさつ

和光市長 松本武洋

和光の緑と湧き水だより会報 Verda が 200 号を迎えられたこと心からお喜び申し上げます。

和光・緑と湧き水の会の皆さまにおかれましては、白子湧水群・斜面林の保全、新倉ふれあいの森の保全・管理や身近な自然を活用した観察会の実施など、日頃から活発にご活躍いただき、心から敬意を表する次第です。また、会報では、ビジュアルに、タイムリーに、そしてわかりやすく活動の様子が報告されており、いつも楽しみに拝見しております。

そして、いよいよ来年に迫りました東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、和光市が射撃競技の開催自治体となり、世界各国の方々が和光市を訪れます。都心への良好なアクセスがありながらも自然に恵まれた和光市を多くの方に実感していただけるよう、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。特にこれからは、現在、喫緊の課題として検討が進んでおります「トラスト制度」の実現に向けて、貴会とは緊密な連携と協働が必要であると認識しています。

結びに、貴会の長年にわたる取り組みが、豊かな自然を次世代に引き継ぎ、環境保全を推進していることについて敬意を表するとともに、貴会の益々のご発展と、皆様のご健勝ご活躍をご祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。



2019 年 5 月

総会後大坂ふれあいの森視察

どうして護る和光の自然 堀文雄

和光市は、東京都区部に隣接し鉄道・高速道路等の交通の利便性から人口は増加の一途をたどっています。半面、住宅の建設に伴って年々緑や湧水が失われています。

昭和 40 年代は、成増から和光方面を眺めると白子の斜面林が切れ目なく続き、和光に入ると処どころに湧水があふれ心安らぐまちでした。

その自然豊かな和光市も近年の人口増加とともに住宅建設が進み、白子斜面林においてもマンション建設のために樹木の伐採と斜面の掘削があちこちで行われ、かつての帯状の緑は分断され、このまま放置すれば斜面林を含めた貴重な自然は減り続け、和光の魅力もなくなってくるでしょう。

私有地の緑を護るのは相続等個々の事情で難しくなっています。どうすれば自然を護れるのか真剣に考える時期に来ています。みんなで知恵を出し合い考えてみようではありませんか。



白子川と緑が続く斜面林 2016 年 6 月の様子

「和光の緑と湧き水」とのご縁

坂 井 和 子

1954年に板橋区立の中学校に赴任して早々に、虫垂炎で国立埼玉病院に入院した同僚を仲間と連れ立ってお見舞いに行った。成増駅で降りた時目にした風景は今でも鮮やかに脳裏に焼き付いている。現在のように高い建物は何も無く、西方に下ってまた上がる地形は一面緑色で所々に屋根が散見されるだけだった。バスも254の道路も無い時代のこと、ひ



白子の滝

たすら坂を下って上がってようやくたどり着いたのが旧陸軍病院の名残で病棟が全てトタン作りのかまぼこ兵舎だったのには驚いた。

下って1968年諏訪原団地に入居して早々、白子に住む同僚が自宅脇の白子の滝をはじめ市内各所の湧き水を案内して下さり、更に別の同僚が旧陸軍予科士官学校の最後の卒業生で、和光・朝霞・新座にまたがる広い練兵場で日夜厳しい訓練に明け暮れた話や、たまの休日に平林寺へ

の騎馬散歩を楽しんだ話をしてくれたので、新しい居住地に比較的早く馴染めた気がする。

ご近所の花園、永遠に！！

峯岸正雄



キンラン

その名は“新倉ふれあいの森”、我が家から徒歩10分の近さです。春到来を告げるニリンソウ等の開花に始まり、一年を通じて絶滅危惧種を含む多種類の山野草を目の当たりに楽しむことが出来ます。当ふれあいの森は武蔵野台地が荒川低地に接する斜面の一隅に位置し、湧水も伴っています。武蔵野の面影を残す雑木林の林床に花々が競って咲きます。月一回仲間と保全活動に一汗掻いた後に眺める花々は一段と魅力を増し、格別な趣があります。

大変気懸りなことは、日本全体では既に総人口が減少に転じていますが、和光市は地の利と豊かな自然が相俟って人気があり、依然として人口増加が続いています。このため、ここ2、3年市内のあちこちで宅地開発等により急速に緑が失われています。関係者のご努力でこの貴重な緑地、新倉ふれあいの森が未来永劫存続することを切に願っています。

和光の綺麗な水を子供達に残していきたい

若村 直則

この度は会報 Verda200 号の発刊おめでとうございます。

私は利便性と暮らし易さから、今年3月に和光市に引越して参りました。それから間もなくして和光市には美しい湧き水があり、そして保全活動をなさっている皆様のことを知り、参加させていただくこととなりました。活動に参加してまだ日は浅いですが、回を重ねるごとに、自然との出会いや、地域の人との関わり合いの愉しさに感動しております。開発が進むこの土地で、20年近く活動を続け、利便性や産業が発達し変化の激しい環境の中、貴重な湧き水を守り続けている皆様の活動は素晴らしいことだと思います。そして、微力ながら皆様と共に保全活動に携われていることに大きな喜びを感じております。私事ですが今年の初夏に長男が生まれました。息子がもう少し大きくなりましたら、美しく澄んだ湧き水や、そこに生息するサワガニと一緒に見に行けるのをとても楽しみに、今後も皆様と共にこの美しい環境を残していけるよう尽力したいと思っております。



富澤湧水の水辺で

『ふれあいの森づくり』はふれ愛活動 赤松祐造

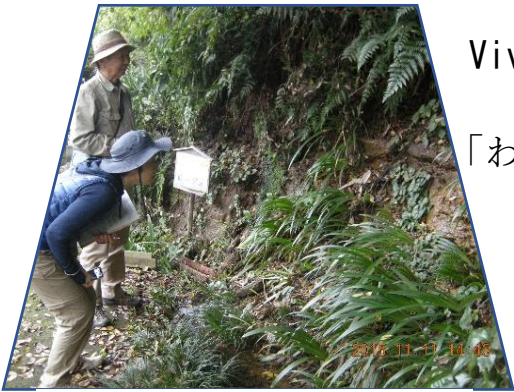
2007年9月8日 NPO 法人和光・緑と湧き水の会が創立、その少し前、和光で最初にできた森は新倉ふれあいの森です。このネーミングの当初案は宮前緑地や上之郷緑地等も上がりましたが、みんなで新倉ふれあいの森に決めました。『ふれあいの森』 みんなで協力し合って、この和光の緑を守ろうという思い、無理をせず、スローライフのボランティア



新倉ふれあいの森で保全活動後のひと時

活動、今日まで続いています。ふれあい（愛）の森は、その後、新倉から午王山ふれあいの森、越戸ふれあいの森、白子大坂ふれあいの森、上谷津ふれあいの森へと、和光の緑を守る輪はふれあい（愛）広がっていきました。森の多様な木々を学べる魅力、多様な人達と出会い、友にもなり、ふれあい（愛）助け合い、一致して活動、これは人の輪・森づくりのようです。そこにふれあいの森の魅力があり、長く続いているのではないのでしょうか。

『朋有、遠方より来る、また楽しからずや』 論語



湧水の仕組みの見える地層

Viva Verda 200号！

栗原政夫

「わ」 湧き水の 会報続き 200号

「き」 清らかで 豊富な出水 酒、製紙

「み」 水に依る 白子の宿を 考えよう

「ず」 随分と 太古の地層 目の前に

新倉ふれあいの森の緑（色彩）

高柴 重夫

2006年4月、新倉ふれあいの森がオープンした。その一年前に森の奥にある竹林に初めて足を踏み入れて驚いた。長年人の手が入らず暗く閉ざされた空間は倒れた竹が腐ったまま積みあがり、限り無く黒に近いダークグリーンであった。人の手が入らなくなった里山の無残さを垣間見たようだ。

それから毎月一回会員の保全が続きあれほど暗かった竹林に陽の光が入り生き返ってくると、若返りの象徴であるタケノコが頭を出し古い竹との世代交代を繰り返すと、竹林が青みがかった清々しい緑色に戻ってきた。その後、毎年「春の観察会とタケノコ掘り」で市内の親子連れがタケノコを掘りながら歓声を上げて楽しんでいる。

森全体も樹木の選定や枝打ち、草地の刈り込み等の整備が進むと、森自体が明るくなり林床から貴重な花が蘇ってきた、あるところではヤマブキシソウの黄色が一面に広がりを見せ明るく彩られている。この貴重な森が次世代に引き継がれていくよう、和光市が謳っている「緑をふやし、きれいなまちをつくります」の言葉に期待したい。



新倉ふれあいの森でタケノコ掘り

貴重な湧き水と緑は後世に残せるか？

飯島孝通

入会 10 年程、高橋絹世会長と高橋勝緒理事のリードのもと、月 1 回の定期整備の他、会員毎が近くの整備地を見回り、ごみ拾い、片付け等作業してきました。会の創設時から現地調査での科学的見地や特徴を見出し(行政に都度提出済み)会報も 200 号となりました。

ピンチ!!最近になり重要地の開発が進み、会の全員に動揺が広がっています。和光市はこの東京 23 区に隣接の貴重な湧き水と緑が残せるかが問われています。湧き水は災害時用の貯水槽を作ることも出来ます。

トラストの可能性など話し合っているが市側からの積極性、反応は今一ツ。行政の先見性ある発表がないと(市報)、開発の恐れを強く感じます。このまゝ時間経過すると、特徴をなくし単なる和光都民の住宅地になってしまいます。行政の主導的リードを願うばかりです。作業での汗、観察会での市民への数多くの説明が活かされますよう。



富澤湧水路



中学生の夏のボランティア体験

失われた緑を求めて

高橋勝緒

和光市には緑と湧き水がある。でも、近年その消失が速い。

2018 年には、白子のわんぱく広場下の湧水のあるカタクリと雑木林の斜面が跡形もなく削り取られた(写真)。そこから徒歩 3 分、国道 254 沿いの旧柴崎邸の巨木の森も皆伐されマンションに。そして大坂ふれあいの森の隣接地も売却され 2019 年に工事が始まり、湧水の小川が消える。

和光を代表する和光樹林公園では大部分のヤマザクラが枯れ死し、かつての樹林公園は見ると影もない。どんな“樹林”へと整備されるのかは不確かだ。

東上線北側でも、森と湧き水の流れがあった坂下湧水公園が消滅。漆台の洗い場下のカタクリの多生する梅林でも開発が進みつつある。新倉小の南側斜面の森も。そしてこれまでに、立派な高木の並んだ西本村ふれあいの森が、その近くの宮ノ台ふれあいの森や、越戸川沿いの越戸川ふれあいの森もマンションや住宅街に姿を変えた。新倉の半三池跡の大樹の森は減少し、内陸部北限に生きていたヘラシダは既に無い。かつて、牧野富太郎が清水かつらを伴って散策したという、国



の絶滅危惧種ヒロハアマナの自生した谷中川沿いの緑野も今は整った住宅街に。

湧き水の会の 20 年は、和光市の“発展”と緑地・湧水地の消えゆく姿を追ってきたのだろうか。でも、残る貴重な場所を守り活かす活動は続けたい。



建設が進むかつてのカタクリ自生地 2019 年 9 月

緑地保全活動について

芝 勝治

神無月、綺麗な曼珠沙華があちこちに見られる季節になりました。しかし気温は32℃の真夏日を観測、これも地球温暖化の影響なのかな。ペットボトル、ビニール袋の削減や自然環境に私たち一人ひとりが今すぐに問題意識を持って行動に移していく必要があると思います。

私たちは湧水の多い市内の湧水緑地や公園、川、井戸などの保全や水質調査を行っています。災害などで停電や断水になった時にはとても必要になります。しかし和光市は人口が増えマンションの建設と共に緑地が激減しています。

次世代を担う子供たちや、動植物の生存の為に、緑地の確保と環境問題に微力ながら努力したいと思います。



大坂ふれあいの森 観察会

富澤湧水“自然園” が特別緑地に 高橋絹世

2015年の暮れに「白子コミセンで地域の方に説明会がある」との市からの連絡があり、会員皆誘い合って参加しました。長い間保全してきた富澤湧水が、特別緑地保全地区に指定される、という大ニュースでした。

富澤湧水の森はかなり広く、湧き水の仕組みがわかる地層があり、水量は和光市で最も多い所です。森はあまり人手が入っていない自然に近い森で、ケヤキやムクノキ、桜、

杉、椿など変化に富み、山奥へ入ったような感じのする“自然園”という名にふさわしい所です。

湧水路には都市部では珍しいサワガニやヘビトンボが生息しています。石垣の湧水道や湧水タンクなども珍しく、湧き水を生活にうまく取り入れた工夫を凝らした独特の使い方があります。江戸時代の紀行文に「清潔の水みなぎり流れて、潤沢なるは浦山し（羨ましい）」と記されています。“自然と歴史の交差点”として大切に、時代を超えて伝えていきましょう。



2019年11月～12月の主な活動予定



予定	全体会	新倉ふれあいの森	富澤湧水 大坂ふれあいの森（地域の会に協力して）
11月	10月27日（日）和光樹林公園 昆虫探し森あそび	第3土曜日	2日（土）富澤保全 20日（水）大坂ふれあいの森
12月	14日（土）和光の湧き水観察会予定	18日（土）定期保全	7日（土）富澤湧水落ち葉破棄 18日（水）大坂ふれあいの森
他	3月末 カタクリ・ニリンソウ観察会 4月半ば タケノコ掘体験 4月末 総会、つつじ祭り	主に第3土曜日	主に第2土曜日（富澤） 第3水曜日（大坂ふれあいの森）